

第4回東日本大震災の記憶・教訓伝承のあり方検討有識者会議の概要

【第5回東日本大震災の記憶・教訓伝承のあり方検討有識者会議資料】

第4回東日本大震災の記憶・教訓伝承のあり方検討有識者会議の開催概要

- 日時：平成30年1月11日(木)午後1時から午後3時まで
- 場所：本町分庁舎(漁信基ビル) 702会議室
- 議事：(1)第3回有識者会議・市町会議の概要について
(2)震災の記憶・教訓の伝承について
(3)震災の記憶・教訓の伝承に向けた連携・ネットワークについて
(4)その他

○委員名簿

座長	今村 文彦	東北大学災害科学国際研究所所長・教授
委員	阿部 重樹	東北学院大学経済学部共生社会経済学科教授
//	石塚 直樹	一般社団法人みやぎ連携復興センター代表理事
//	臼井 弘	気仙沼市自主防災組織連絡協議会会長
//	太田 倫子	公益社団法人こども未来研究所代表理事
//	小田 隆史	宮城教育大学附属防災教育未来づくり総合研究センター准教授
//	武田 真一	河北新報社防災・教育室長
//	塚原 大介	みやぎ観光復興支援センターセンター長
//	宮下 加奈	一般社団法人減災・復興支援機構専務理事
//	宮原 育子	宮城学院女子大学現代ビジネス学部学部長・教授

第4回東日本大震災の記憶・教訓伝承のあり方検討有識者会議の主な御意見

(2) 震災の記憶・教訓の伝承について

① 震災の記憶・教訓の伝承の理念について

【理念のあり方】

○追悼の念を持ち続けながら伝承することも記載して欲しい。【宮原委員】

【具体的な目標】

○今回の議論が今後どのような取組に関係していくのか、わかる範囲で書いていただきたい。
【今村座長】

② 「何を」伝承するのか

【記録・情報】

○宮城県の県土の特性(環境・風土・自然)を伝え続けるところが大事。【宮原委員】

【記憶・経験】

○「記録・情報」や「知識・教訓」と違い、復興ではなく、被災体験によっている印象。災害・震災からの復興の記憶や経験などの文言を加え、それらも含めて伝承していくという考え方もあるのではないか。【石塚委員】

(3) 震災の記憶・教訓の伝承に向けた連携・ネットワークについて

【ネットワークの必要性・機能】

- 内向きのネットワークであれば、補助金等の「官」の仕組みで間に合うが、外向けの情報発信となった場合、人や組織をきちんと把握して一体となって動く方向性と、その中心となるべきものを作っていかなければならない。【武田委員】
- 既に色々な所が活動しているが、有機的に結びつかず、発信の分散化・散漫化しているため、東日本大震災の被災地は全然伝えていないのではないかという意見もある。名簿上のネットワークではなく、すべての情報が集約され、それに基づいて機能が高められる形で、人を送り込めるような供給源となる存在が必要になってきたと思う。【武田委員】
- 県民運動的な所を目指す中で、啓発の連携・ネットワーク化というのも成り立ちうると思う。【武田委員】

第4回東日本大震災の記憶・教訓伝承のあり方検討有識者会議の主な御意見

(3) 震災の記憶・教訓の伝承に向けた連携・ネットワークについて

【ネットワークの位置付け】

- ネットワークがクローズドシステムの印象。国や岩手県、福島県だけではなく、今後震災が予想される地域にも伝承し、交流することで、他地域でも積極的に一緒に協働して取り組んでいきたいという自治体や地域社会、団体組織もあることから、そうしたところを連携、協働できる可能性を示せればいい。【阿部委員】
- インデックス機能とネットワークハブ機能で、3つのネットワークが共通して整理できるのではないか。3つのネットワークがレイヤー状に重なり、それぞれでつながっているのではないか。既に動いている取組をプロットできると、現状と組織のあり方も見えてくるのではないか。【石塚委員】
- 体験談の掘り起こしは東日本大震災の経験がスタートなのか、過去の災害も含めるのか。過去の災害でどういった形で県民・市民が受け止めてきたのかも掘り起こして検証する必要があるのではないか。ネットワーク化の一番の根にあるのは県民意識だと思う。【臼井委員】
- ネットワークが、名簿の繋がりだけではなく、研修・研究など、動的な繋がりを作っていくには、日本ジオパークネットワークの活動が参考になる。【宮原委員】
- ネットワークのプラットフォームをどういう形でどこに置くかも示せれば、次の議論が進む。【阿部委員】

第4回東日本大震災の記憶・教訓伝承のあり方検討有識者会議の主な御意見

(3) 震災の記憶・教訓の伝承に向けた連携・ネットワークについて

【震災遺構・伝承施設のネットワーク化】

- 民間企業の取組をフォローし、取り組んでいくことが重要。公的なものを網羅すればネットワークが完了するものでもない。【武田委員】
- 仙台空港や道路, JR等の鉄道, 船舶等の交通機関も被災し, 復旧したという復興プロセスを踏んでおり, そうした方々と連携することで, 周遊しながら色々学べるところをみせると, 外部の方に活用してもらいやすくなる。【宮原委員】
- 栗原のジオパークが入っていない。東日本大震災とするから入っていないが, 内陸部との意識の差を考えた場合, 岩手宮城内陸地震を含めた過去の大きな地震災害を複数経験している県としてその知見は無視できないので, 気を付けた方が良い。【武田委員】
- ゲートウェイ施設を位置付けているが, どのように分散・誘導していくかが重要。実際の伝承施設のネットワーク化の核となり得るのが核心の議論になる。【武田委員】

第4回東日本大震災の記憶・教訓伝承のあり方検討有識者会議の主な御意見

(3) 震災の記憶・教訓の伝承に向けた連携・ネットワークについて

【アーカイブの連携・ネットワーク化】

- 既存のものを結びつけるだけでは、官的な機能でできるし、どうやるかという観点では行き詰まる気がする。既存のものをネットワーク化して、分析・データベース化する方向性はきちんとしなければならないが、「体験談の掘り起こし」がネットワーク化の重要な視点になってくるのではないか。「体験談の掘り起こし」をし、共有するという流れのためのネットワークだとしたら、既存のものをピックアップするだけでは足りない。【武田委員】
- 多くの記録誌等があるが、そこからどういった教訓が導き出せるのか、受け取る側が十分に承知できない、読む側任せとなっているところがあると感じている。他地域や次世代に伝えられるものを改めて分析しなおしたり、教訓を引き出す取組や実施主体・組織が必要ではないか。【小田委員】
- 語り部も含め、分析して伝えていく、読んだ後に何かのヒントが与えられるようなまとめ方をする仕組みが必要。【宮下委員】

(3) 震災の記憶・教訓の伝承に向けた連携・ネットワークについて

【取組主体の連携・ネットワーク化】

- すべてのものに働きかけるような、すべての情報を紹介できるような拠点となる組織な重要になってくる。【武田委員】
- 主体となる団体も必要だが、県民一人一人が伝承の主体者であるという意識付けが必要。内陸部も含め、県内の人達の意識が高まるようなネットワークづくりも大事だと思う。【宮下委員】
- ネットワークの取りまとめ、集約をする、円の中心にいるのが誰なのかを強力に進めていかないと他人任せになってしまう。【塚原委員】
- ネットワークの真ん中に何らかの取組主体があって取りまとめをするイメージかどうか分かりづらい。宮城モデルを作るという方針で進むのであれば、県にイニシアチブを取ってほしい。【太田委員】
- 取組主体に是非福祉団体を入れていただきたい。障害者や災害に弱い方達にとっての教訓を伝承するということは非常に重要。【宮下委員】